

2010年3月期 第1四半期 業績の概況

- 連結業績の状況
- 主要製品の売上高
- 開発品の状況
- 参考資料
 - ・ 2010年3月期第1四半期 業績の状況(連結)
 - ・ 主な子会社の業績と予想

2009年8月5日

株式会社キョーリン



2010年3月期第1四半期 決算概観(連結)



10年3月期第1四半期 連結業績(実績)

<対前年>

売上面では、国内新医薬品における主要製品が順調に推移し、連結売上高は233億円(前年比12.2%増)となりました。

利益面では、日清キョーリン製薬(株)の統合により販売費及び一般管理費が増加しましたが、売上の増加と主要製品であるペンタサの自社製造等に伴う売上原価率の改善により、営業利益は32億円(前年比217.0%増)、当期純利益は20億円(前年比265.8%増)となりました。

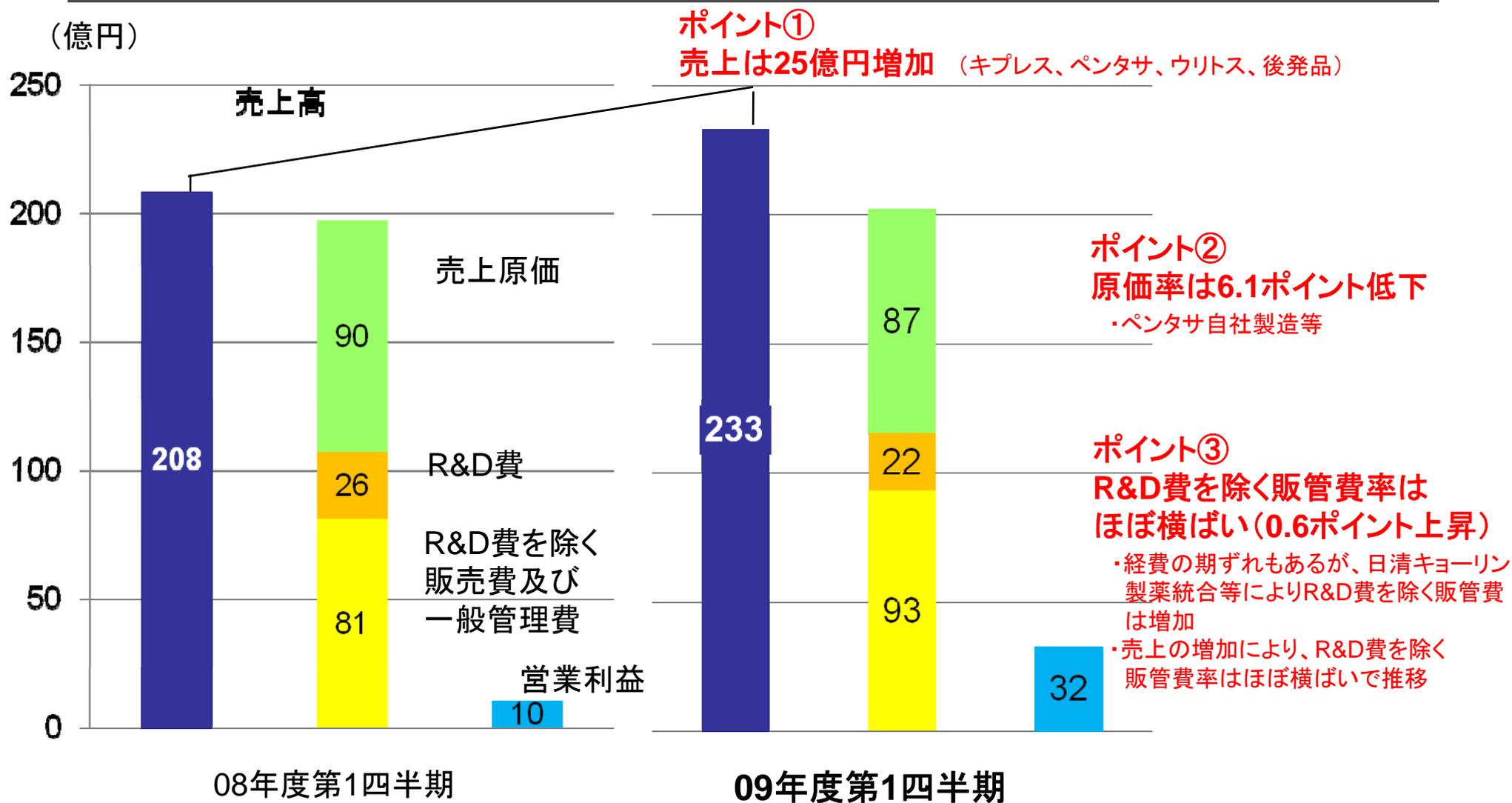
<対予想>

利益面では、売上の増加に加え、販売費及び一般管理費において研究開発費等の期ずれが生じたことから第2四半期累計期間の予想額を上回る利益を計上しました。しかしながら、研究開発費の期ずれ分については今後の費用発生が予定されることから09年5月13日に公表しました第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては現段階では変更いたしません。

単位: (百万円)	07年3月期 第1四半期	08年3月期 第1四半期	09年3月期 第1四半期	10年3月期 第1四半期	前年比
売上高	18,685	21,891	20,756	23,289	12.2%
営業利益	1,686	4,082	995	3,156	217.0%
経常利益	1,690	4,321	1,228	3,417	178.2%
当期純利益	782	2,600	540	1,976	265.8%

10年3月期 第2四半期 累計期間 予想	前年比	10年3月期 通期予想	前年比
43,100	7.1%	96,400	6.1%
2,500	101.0%	11,500	28.5%
2,900	146.7%	12,300	33.6%
1,500	—	7,300	258.3%

第1四半期 業績のポイントと予想について



※業績予想について(第2四半期累計期間の予想額を上回る利益を計上)
第1四半期の販管費予想に対して20億円弱の差異が生じたが、殆どは研究開発費の期ずれ

2010年3月期第1四半期 業績の状況(連結) *Kyorin*

健康はキョーリンの願いです。



単位:億円

	09年3月期 第1四半期 (実績)	10年3月期 第1四半期 (実績)	対前年 増減
売上高 合計	208	233	+25
◆新医薬品	173	195	+22
国内	165	189	+24
海外	9	6	▲3
◆後発医薬品	14	18	+4
◆ヘルスケア	17	17	±0
◆その他	3	2	▲1
営業利益	10	32	+22
経常利益	12	34	+22
当期純利益	5	20	+15

■売上高	233億円		対前年 (+25)
●国内新医薬品	189億円	09.3(1Q)実績	(+24)
・キプレス	57	⇒	66 (+9)
・ムコダイン	50	⇒	51 (+1)
・ペンタサ	31	⇒	48 (+17)
・ウリトス	2	⇒	8 (+6)
・ガチフロ	5	⇒	0 (▲5)
* ガチフロは08年9月30日付けで販売中止			
●海外新医薬品	6億円		(▲3)
・ガチフロキサシン	7	⇒	6 (▲1)
・ノルフロキサシン	1	⇒	0 (▲1)
●後発医薬品	18億円		(+4)
* 承継品、重点商品等の売上増加			
●ヘルスケア	17億円		(±0)
●その他	2億円		(▲1)
◆原価率 : 前年比6.1ポイント低下			(43.3%⇒37.2%)
低下要因: ペンタサ自社製造等に伴い低下			
◆研究開発費率: 前年比3.3ポイント低下			(12.7%⇒9.4%)
* 26億円⇒22億円(約4億円減少) 経費の期ずれ			
◆販管費率(除R&D費) : 前年比0.6ポイント上昇			(39.2%⇒39.8%)
上昇要因: 日清キョーリン製薬の統合による影響など			
■営業利益	32億円		(+22)
◆営業利益率は13.6%と8.8ポイント上昇			
■当期純利益	20億円		(+15)

主要製品の売上高について

(単位: 億円)

製品名	第2四半期累計期間		通期		第1四半期(4月～6月)					
	08年度実績	09年度予想	08年度実績	09年度予想	08年度実績	09年度実績	前年比	中間進捗率	通期進捗率	
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	104	118	252	274	57	66	16.9%	56.4%	24.2%
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	87	91	206	215	50	51	1.5%	55.7%	23.6%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	71	89	157	186	31	48	57.2%	54.2%	25.9%
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害改善剤)	26	26	50	50	13	11	▲10.2%	44.7%	23.2%
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	6	15	20	37	2	8	235.0%	51.6%	21.5%
	アプレーズ (胃炎・胃潰瘍治療剤)	8	8	15	15	4	4	▲0.8%	50.7%	26.2%
	ロカルトロール (活性型ビタミンD3製剤)	8	7	15	14	4	4	▲9.8%	51.2%	26.4%
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	14	13	25	23	7	6	▲14.1%	43.8%	25.2%
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	9	9	18	20	5	5	3.1%	50.7%	23.3%

ガチフロキサシンはライセンシー向けのバルク売上とともに、ライセンシーの販売に応じたランニングロイヤルティを含んだ売上を計上いたしております

開発品一覧①(09年8月5日現在)

Ph II ~ 申請中						
開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
承認 (08年12月)		ペンタサ錠250 錠500	潰瘍性大腸炎・ クローン病 治療剤	フェリング 社	潰瘍性大腸炎活動期に対する新たな緩解導入療法 (1日4,000mgを2回に分けて投与)	用法・用量の追加
	(ガルデルマ社 発売中)	塩酸アモロルフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
	Ph II (04年10月)	KRP-204 (錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が少なく、 肥満を改善することが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 ・Ph II a終了
Ph II (07年3月)		KRP-204 (錠)	過活動膀胱 治療剤	日清製粉	β3受容体作動薬 膀胱におけるβ3受容体の活性化により膀胱を弛緩 させ蓄尿機能を高めることが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 ・Ph II a終了
Ph II (05年3月)	(エーザイ Ph III)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・Ph II b(07年9月)開始
	Ph II (04年6月)	KRP-101 (錠)	脂質代謝改善/ 糖尿病治療剤	自社	PPARαアゴニスト。中性脂肪等脂質代謝改善作用に 加えて、糖尿病に対する有効性が期待される	Ph II a終了
Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	・海外Ph II a終了 (08年8月) ・国内Ph II b開始 (09年3月)
Ph II (08年8月)	(米国:アボット 申請中 欧州他: ムンディファーマ Ph III)	KRP-108	気管支喘息治 療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で利便 性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社と ライセンス契約(08年4月)

開発品一覧②(09年8月5日現在)

POCプロジェクト(前臨床~Ph I)						
開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPAR α アゴニスト。KRP-101よりもさらにPPAR α 受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	
前臨床		KRP-107	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P1受容体選択的アゴニスト。	
前臨床		KRP-109	急性肺障害	自社	肺移行性の高い好中球エラスターゼ阻害剤。	

開発品一覧③(09年8月5日現在)

導出品の状況

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

参考資料

2010年3月期第1四半期 業績の状況(連結)

(単位:百万円)

	第2四半期累計期間		通期		第1四半期(4月~6月)					
	08年度 実績	09年度 予想	08年度 実績	09年度 予想	08年度 実績	09年度 実績	前年差額	前年比	第2四半期 累計期間 進捗率	通期 進捗率
売上高	40,261	43,100	90,889	96,400	20,756	23,289	+2,533	12.2%	54.0%	24.2%
新医薬品	33,046	35,600	75,690	78,800	17,348	19,503	+2,155	12.4%	54.8%	24.8%
国内新医薬品	31,239	34,000	71,935	76,100	16,487	18,910	+2,423	14.7%	55.6%	24.8%
海外新医薬品	1,806	1,500	3,755	2,700	860	592	▲268	▲31.2%	39.5%	21.9%
後発医薬品	2,929	3,700	6,264	8,700	1,438	1,829	+391	27.1%	49.4%	21.0%
ヘルスケア	3,684	3,600	7,725	7,800	1,654	1,719	+65	3.9%	47.8%	22.0%
その他	600	400	1,208	1,100	314	237	▲77	▲24.5%	59.3%	21.5%
営業利益	1,243	2,500	8,952	11,500	995	3,156	2,161	217.0%	126.2%	27.4%
経常利益	1,175	2,900	9,208	12,300	1,228	3,417	2,189	178.2%	117.8%	27.8%
当期純利益	▲1,606	1,500	2,037	7,300	540	1,976	1,436	265.8%	131.7%	27.1%

主な子会社の業績と予想について

(単位：億円)

キョーリン製薬	09年3月期 実績	10年3月期 予想	09年3月期 第1四半期実績	10年3月期 第1四半期実績
売上高	780	817	180	202
営業利益	85	114	14	34
当期純利益	40	77	10	25
キョーリン リメディオ	09年1月期 実績	10年3月期 ^{※2} 予想	09年1月期 第1四半期実績	10年3月期 第1四半期実績
売上高	74	103	17	21
営業利益	▲4	1	▲2	0
当期純利益	▲6	1	▲2	1
ドクタープログラム	09年3月期 ^{※1} 実績	10年3月期 予想	09年3月期 第1四半期実績	10年3月期 第1四半期実績
売上高	41	38	8	8
営業利益	1	1	▲2	▲2
当期純利益	1	1	▲2	▲2

※1:ドクタープログラムの2009年3月期業績は決算期変更に伴い、14ヶ月分を計上

※2:キョーリン リメディオの2010年3月期予想は決算期変更を予定しており、14ヶ月分を計上した業績を予想